

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0793100124		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホームきずな1階		
所在地	福島県田村郡小野町大字谷津作字高山3-5		
自己評価作成日	令和2年11月18日	評価結果市町村受理日	令和3年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域の総合病院と緊急時に24時間365日救急搬送を受け入れていただけるように医療協定を結んでいるため安心して過ごしていただけます。
 ・定期的に防災訓練や救急救命訓練を実施し、災害時に対応できるようにしています。
 ・入居者様の笑顔が一番を考え、外出ができない時期にも塞ぎこんでしまうことのないように日々の生活の中のレクリエーションや行事を通してADLの維持をしつつ楽しみを見出すことができるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 職員は利用者一人ひとりに寄り添い傾聴しながら利用者の思いを尊重し、利用者本位の支援を行っている。また、いつでも笑顔で過ごすことを理念に謳い、職員の笑顔での支援が利用者の笑い声につながっている。また、日頃から家族とコミュニケーションが良くとられており、利用者はゆったりと落ち着いた生活を送っている。
 2. 法人は職員の人材育成と資質の向上に努め、職員研修・エコアカデミー等を実施している。現在、コロナ禍にあり、オンライン研修も取り入れている。また、資格取得に向けた支援体制もあり、職員の資質向上につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔とがんばり」をモットーとしていつでも笑顔を忘れずに入居者様に携わりたいと思っている。また、入居者様一人一人の生活歴を尊重しケアにあたっている。	利用者が自分らしく過ごせるよう「笑顔とがんばり」で地域の人々と馴染みのある支援をすることを理念に謳い、事務室に掲げている。日々の申送りの際に唱和し、職員間で共有しながら、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の際に入居者様から希望をうかがい、地域にある飲食店から出前をとっている。また散髪に関しても地域で訪問して下さる理容店を探し、訪問理容を利用することで地域との関わりを持つことができている。	事業所行事に地域の人を招待したり、ボランティア等の受け入れをする等、地域交流に取り組んでいたが、現在コロナ禍にあり中止している。事業所周辺の散歩や地域の飲食店から出前を取り、訪問理容を利用する等、交流の機会を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の訪問介護サービスや定期巡回等の介護事業所があり、こまめに情報共有をして認知症に関する理解を深めていけるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響で開催できていないものの、近隣にある特別養護老人ホームと情報交換を行いながら運営推進会議資料を作成し、よいサービスを提供できるよう努めている。	運営推進会議は定期的開催し、事業所からは、事故・行事・利用者状況等の報告を行い、委員から出された意見等はサービス向上に活かしている。現在は、コロナ禍で書面開催となっており、委員の意見も書面で把握し、報告した事故の対策まで報告するようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	小野町役場の担当の方と連携し、現在の入居者様の様子や入居状況等を報告している。越境で入居希望される場合には該当する市町村への連絡もこまめに行っている。	コロナ感染に関わる情報を得たり、事業所の状況を伝えるほか、疑問点等も問い合わせできる関係を築いている。小野町以外の利用者の受入も多く、それぞれの市町村の行政担当者とは、日頃から相談したり、情報交換を行ったりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人一人が身体拘束をしないケアを心がけており、落ち着きがなく見守りや声かけが必要な入居者様に対してはどのような対応をしたらよいか常に考え工夫しながらケアをおこなっている。	身体拘束等適正化の指針を作成し、研修会を定期的に開催している。また、3カ月に1回、委員会を開催し、疑問点を話し合い、身体拘束をしないケアに努めている。職員が利用者へ目配り、気配りをしながら、不穏な利用者には一緒に散歩する事で鍵をかけない自由な生活につながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新型コロナウイルスのため動画等を利用しながら虐待防止法や虐待につながる危険性があるものについて学ぶ機会を設けることで職員間でお互いに声をかけながら注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	例年であれば法人にて開催される研修に参加し必要時に備えるようにしていたが、新型コロナウイルスの影響で研修が開催出来ない状況のため各自で学ぶ時間を作るよう声かけしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約に限らず少しでも疑問に思ったことはその都度丁寧に説明し安心して利用できるように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には入居者様、ご家族様の意見をお聞きする機会を設けている。その中でいただいた意見に関してはスタッフ会議などで周知改善に努めている。	家族が通院介助で来た時や玄関での面会時・電話連絡時に、利用者の生活状況・健康状態等を報告し、その都度、家族からの意見・希望を伺い、それらを運営に反映させるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な管理者面談、職員面談を行っており、ホーム状況や意見、要望を取り入れて今後の運営に反映させている。職員間でもお互いに悩みや不安がないか声をかけて確認し、ホーム全体で解消できるよう話をしている。	管理者は、2ヶ月に1回、職員面談を実施し、職員から意見や要望を聞いている。また職員会議や日常会話でも意見を把握し、出された意見や要望は運営に反映できるよう取り組んでいる。職員間のコミュニケーションはよくとられており、相談等もしやすい雰囲気である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個人のスキルを把握してやりがいや目標を立てることで楽しく働けるような職場づくりを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人が研修などを通して何を学んだか考え会議等で報告することで職員全体のスキルアップを図っている。個人の資格取得も意欲的にすすめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響もありなかなか実施できていない。近隣の介護サービス事業所とは代表者を通してよりよいサービスの提供をしていくことができるよう情報共有している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない方は緊張や不安を抱えているので本人様に寄り添って話を聞いたり、他入居者様とかかわる架け橋となってコミュニケーションをとることで少しでも安心してもらえるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するにあたって心配や不安な点についてその都度耳を傾け、説明することで信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様と家族様からお話をうかがう中で必要とするケアはどのようなものか判断し迅速に対応している。また今後必要になってくる可能性があるサービスに関しても説明し理解をいただくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おひとりでは難しくなってきたことはさりげなくお手伝いさせていただきながら、できることはその方のペースに合わせて時間をかけ見守りや声かけを行うようにしている。日頃からコミュニケーションを多くとることで家族のような関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の少しの変化でも職員だけで判断するのではなく、家族様へ連絡し情報を共有している。家族様との関わりをなくさないため、できる限り定期受診は家族様にお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は新型コロナウイルスの影響もあり控えめにはなっているが、入居者様の地元、地域との関係が途切れないように面会等でゆっくりお話をする時間を設けている。	家族や知人・友人の訪問を受け入れ、利用者とゆっくり懇談できるよう配慮していた。現在コロナ禍のため、玄関先でパーテーションを挟んだ面会とし、利用者の不安を解消し関係の継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や関係を考慮し席の移動をしたり、多く関わられるように行事やレクリエーションの際は職員が仲介に入り支える支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域密着でもあり、近隣の特別養護老人ホームに転居されるなど、いい関係性でいつでも相談に応じる体制をつくり支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の発する言葉や行動をみて、どのように暮らしたいのかご本人様の思いを尊重してサービスを提供している。	日頃の利用者との関わりの中で思いや意向を把握し、職員間で共有している。また、家族の意見を聞き、利用者本位に検討をしている。職員間の情報共有に努めており、一人ひとりの意向に沿った支援がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活に近い暮らし方ができるようにご本人様、ご家族様と相談しながら毎日の生活環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する心身状態などを職員間で共有し、できることを見極められるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	なかなかお会いできないご家族様には電話や文書で意向をうかがい、ご本人様の状況とあわせケース会議で職員の意見を聞きながらチームで介護計画を作っている。	3ヶ月毎にモニタリングやカンファレンスを実施し、見直しを行っている。利用者との日頃の関わりの中で利用者の思いや希望を把握し、全職員で意見を出し合い、家族の意向を確認しながら、現状に即した介護計画を作成している。利用者の心身状況等に変化があった場合は、状況に応じた見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個別記録に記入し気づきやその場合の対処法などを申し送り情報共有を図ることで介護計画に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	インフォーマルなサービスも取り入れご本人様やご家族様のニーズに柔軟に対応する体制を整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の前までは町のボランティアの方を社会福祉協議会や地域包括支援センターと連携を図り来ていただいていたがコロナ禍以降は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今まで受診されていた病院へご家族様協力のもと通院されている。	入居前に医療受診の希望を確認し、家族対応によるかかりつけ医の受診が継続されている。受診の際は、利用者の心身の状態をメモにして家族に渡し、主治医との情報の共有を図っている。また、公立小野町地方総合病院と連携協定を結び365日、24時間救急受入れ体制があり、利用者・家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携がないホームなので他ホームの看護師資格のある方に入居者様の既往歴、現状の病気を情報共有し緊急時に指示を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と良好な関係を築けるように訪問し情報共有をするなどしている。また、入退院時の連絡もスムーズに行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に関する意向を書面で確認しているが重度化した場合考えが変化する可能性もあるので再確認するようにしている。	入居時に事業所より利用者、家族に「重度化した場合における(看取り)指針」に沿って説明し、書面をもって承諾を得ている。なお、公立小野町地方総合病院との連携体制があり、緊急時には、指導・助言を貰い、必要な時は、他の医療機関への紹介や調整がとられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを配慮し定期的に講習を受けている。急変時や事故発生時に対応できるように月に1度の訓練を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を実施している。小野町から配布されているハザードマップを職員の目に入る場所へ掲示し確認できるようにしている。	年間防災訓練計画の基、定期的に防災訓練や救急救命訓練を実施しており、消防や警察とも連携を図っている。また、町から配布されたハザードマップを活用し、風水害時の避難経路を確認し、安全に避難できるよう職員間で認識を深めているが、夜間想定訓練は実施していない。非常用備蓄品として米、水、ジュース、缶詰類等を準備している。	台風や地震・夜間想定避難訓練は実施していないので、様々な災害等を想定した訓練を行ってほしい。また、夜勤者も参加できるよう日程を調整しながら職員全員が利用者を安全に避難できるよう取り組んで欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を大切にし日常的な言葉使いに注意している。また職員同士お互いの声かけで気になるところは指摘しあいながら改善に努めている。	利用者が、今まで培ってきた知識や経験を職員が理解し、言葉遣いや関わりを持つときの態度に注意し利用者との関係作りに活かしている。また、職員間でも気づいた点は、お互いに指摘し合える人間関係が出来ており、改善に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で意思決定できる場面を作り、思いを気軽に言える雰囲気をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活歴を尊重し、常に入居者様におうかがいをたてながら、その方のペースで過ごしていただけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用し散髪している。その方の好みの服を着ていただきながら、衣類や髪も乱れや汚れのないよう注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	行事の際には入居者様から要望をうかがい手作りをしたり、地域の飲食店から出前を取るなどして楽しんでいただけるよう工夫している。	利用者と職員と一緒に準備や片付け等を行い、同じメニューと一緒に味わい楽しい食事の時間を過ごしている。メニューは食材納入業者の管理栄養士が立て、食材等も納入されている。行事食として利用者の希望を取り入れた料理をつくり、また、地域の飲食店から出前をとるなどの支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが考えられたチルド食を提供している。水分摂取量に関しては個別に記録し不足している方には好みのものを提供し摂取していただけるような働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけ、見守り、介助を実施するようにており口腔内の清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつを使用されている方でも日中帯はできるだけトイレ誘導し、トイレでの排泄が行えるよう支援している。	排泄チェック表や排泄サインを見ながら、プライバシーに配慮し、定期的トイレへの声かけ・誘導・見守りを行っている。日中帯は、おむつ使用者も出来る限りトイレでの排泄が維持・継続出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作ることで便秘が起きていないかを確認し、必要に応じて適度な運動や水分摂取の声かけ等おこなっている。また重度の便秘の方には定期受診の際に主治医に相談し、整腸剤や下剤の処方をしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴確認票を作ることで誰がいつ入浴したのかを確認し、入居者様に入浴のタイミングを把握しながら間が空きすぎることのないよう入浴の声かけ、介助実施している。	入浴は、週2回を目標に入浴確認票を基にして、利用者の体調や要望、生活習慣等を参考に日時を決定している。職員と会話しながら、ゆっくりと入浴が出来るよう支援している。また、個人の希望に合わせ、保湿剤等を使用している利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じて空調を使用し室温の調整をすることで快適に休んでいただけるようにしている。また、その方にあった寝具(電気毛布等)で調整していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況は個別に記録しており、処方薬の変更など職員間で情報が共有できるようにしている。また受診結果についても家族様に確認し何か変化があった場合には申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	短時間でも外出の機会を設けることで楽しみをつくらせている。また動画等を利用し、昔よく見ていたテレビ番組等をみたり、動物や赤ちゃんの映像をみたりと楽しませている。自宅にいる際から飲まれているドリンクを飲むことを楽しみにされ毎日1本お渡ししている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響もありなかなか外出できない時期が続いたが、その中でも外出できる機会をもうけることができています。月に一度の定期受診の際には家族様と一緒に受診していただき、近隣のドライブ等お願いしている。	年間行事予定を作成しているが、コロナ禍で出かける回数は少ない。家族の協力を得て定期受診で出かける際、短時間のドライブや車中での食事をお願いしている。また、事業所内でのレクリエーションや事業所周辺の散歩・行事を通してADLの維持と気分転換が図れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で預かりし金銭管理を行っているが、ご自身で管理できる方で希望がある場合には少額ではあるものの本人様にも所持していただき買い物等されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の了承を得て希望がある際には電話の取次ぎを行っている。手紙のやり取りも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	感染予防に留意しながら定期的に換気や消毒を実施し安心して過ごすことができるよう環境整備している。また室温調整、におい等にも十分に配慮し共有空間には季節の飾りつけや広報誌を展示し居心地よく過ごせるようにしている。	共用空間であるリビング・食堂・廊下等には、季節を感じさせる雛人形や生活感を取り入れた飾り物、広報誌等を配置し、落ち着いた過ごし易い環境整備に心がけている。また、感染症対策として、一日3回、定期的に換気・温湿度の調整を実施し、安心して生活が送れるよう支援している。気になる音・光等は、感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには食卓のほかにソファを設置し気の合う方同士集まって思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	自宅で使用していた馴染みのあるものをお持ちいただくことで少しでも居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。	利用者の居室には、自宅で使い慣れた馴染みのあるソファ・テレビ・ラジオ・テーブル・イス・こたつ・携帯等が家族と相談の上、配置され、また、夫婦や家族の写真、ぬりえ、色紙等が飾られている。プライバシーが確保され安心して生活が送れるよう自分だけの部屋の構築を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の身体状況に応じてトイレ等に手すりを設置し安全に移動できるように配慮している。居室内やリビングの動線を確保し安全に歩行、移動ができるようにしている。		